



農村での安定した暮らしを  
自分たちの手で創る

急速な経済成長を続けるカンボジアでは、都市部と農村部の格差が広がり続けています。農村に暮らす人びとの中には、借金によって土地を手放す人、出稼ぎに出る人が増加し、一方で働き手がない家族など、村に残る以外の選択肢がない人びとは、特に経済的に厳しい生活を送っています。また、乾季の水不足によりJVCの研修を受けても菜園などを実践できないといった課題を抱える農家も少なくありません。農村にしながら「安定した暮らし」を農家自身の手で創りだすことが求められています。



都市部では中国など海外資本の開発が続く

### ● 農村における生業改善支援 (シムリアップ州)

活動地域では、近年、大規模な農業開発や人口の増加に伴う農家の自然資源利用の増加によって自然資源が減少しています。また、約4割の家庭が季節的な出稼ぎに行っており、そのうち半数は隣国タイに行っています。村では田植えのための人手を確保することが難しく、種籾を直接田んぼに播く「直播き」を導入する農家が増えています。農作業に時間をかけられなくなったことで、逆に食料を購入しなければならず、出稼ぎによる収入が増えても、支出が増えることで家計が赤字になっている農家も散見されます。また、働き手がおらず、現金収入がほとんどない農家もいます。そこでJVCは2015年10月より、シムリアップ州チークリエン郡にある6村を対象に、地域の農家が営んでいる生業の改善を通して、食料の安定的な確保の向上に取り組んでいます。これまで支援してきた生態系に配慮した農業に加え、食品加工や身近で比較的栽培しやすい食用植物の普及・奨励を進めるほか、2018年度はプロジェクトの評価を行い、これまでの成果と課題を整理しました。

#### [成果] ◎食用植物の普及・奨励

プロジェクト評価の結果、村に残った家族でも簡単に育て増やすことができ、食用となる葉の栄養価が高い多年食用樹（チャヤ、モリンガ、アマメシバ）の普及や家庭菜園については、研修参加者の約7割がこれらの栽培を始めるなどの成果が出ていることが分かりました。また、身近な作物を



家庭でチャヤの栽培をはじめ、夕食に活用する研修参加者



近隣住民や行政と会議を重ね、ため池の掘削場所を決めました